

平成31年度市町村提案事業採択状況

No	市町村名	事業名	事業主体	対象事業費 (千円)	補助要望額 (千円)	事業の概要	事業評価
1	蔵王町	未来へつなぐ伝統産業活性化事業	蔵王町	3,567	1,783	目的 蔵王町は、温泉の歴史と共に育まれた伝統こけし発祥の地として、その歴史と製作技術を守ってきた。しかし、現在、蔵王町に在住している伝統産業「遠刈田こけし」の工人は5名しかおらず、その平均年齢は80歳と高齢化問題が深刻化しており、後継者の育成が急務となっている。蔵王町ではこの伝統を絶やさないよう後継者育成事業に取り組んでおり、3年間修行した見習い工人が、平成31年度より本格的に新規こけし工人として活動を開始することになる。 伝統産業の工人として後世にその歴史と技術を継承しながら自立して安定した生計を立てていくことを可能にするために、伝統と創作が融合した新商品を開発し、「遠刈田こけし」の新たな魅力を国内外に広く発信することで販路の拡大を図る。また、町をあげて「遠刈田こけし」のPRを行い、「遠刈田こけしの郷・蔵王町」としての土壌づくりと「遠刈田こけし」のイメージ定着を図る。	「遠刈田伝統こけし」は、国の伝統的工芸品に指定されるなど、歴史的な価値の高い伝統産業であるが、工人の高齢化と後継者不足は深刻であり、本事業は地域の課題を的確に反映した事業といえる。また、芸術大学と協働で、若い感性と創造性を活かした新商品の開発を行うという取組は、産学官連携で伝統産業に新たな切り口から付加価値の向上に取り組み販路の拡大を図る、町の創意・工夫がみられる事業といえる。さらに、伝統産業の後継者不足という同様な問題を抱える他の自治体にとってモデル的な事業といえる。 以上のことから、本事業は市町村提案事業の主旨に合致した事業と認められる。
						内容 ○芸術大学と連携して、学生が発案したアイデアを取り入れた新商品を開発する。 ○首都圏で開催される全国のクリエイターや工芸品が好きな人が集まるイベントに出展し、絵付けの実演などによる「遠刈田こけし」の魅力発信と新商品のPRを行う。 ○「遠刈田こけし」の地域への定着に向けて、こけしカフェ等のイベントの開催や町内各所にこけし関連オブジェの設置を行う。	
2	大河原町	白石川右岸河川敷整備事業	大河原町	12,807	6,403	目的 大河原町は、白石川堤の一目千本桜により、春には大勢の観光客で賑わいを見せる一方で、桜の季節が終わると、目玉となる観光スポットや魅力ある施設が少ないため、1年を通して賑わいを見ることができない。そこで、白石川右岸河川敷に、新たな観光スポット及びサイクリングなどのスポーツ施設等を整備し、桜の季節以外でも地域の内外から人が集うことで、地域の活性化や賑わいの創出を図る。	大河原町都市計画マスタープラン策定にあたって実施した住民アンケートなどで、サイクリングコースや水辺で遊べる場所のニーズを確認しており、本事業は住民の要望を反映した事業といえる。また、仙南地域の中心に位置する大河原町が、サイクリングコース等の施設整備に向けた基本計画を策定することは、サイクリングコースを整備している近隣市町との相乗効果により、仙南地域全体のサイクルツーリズム発展に向けて高い事業効果が期待できる。さらに、当該河川敷の整備は、大河原町と県のコラボ事業により進めており、県の施策誘導性が高い事業と言える。 以上のことから、本事業は市町村提案事業の主旨に合致した事業と認められる。
						内容 ○検討委員会や先進地視察を行い、町の要望や住民からの意見を取り入れた当該河川敷整備に係る基本計画を策定する。 ○堤防天端舗装とトイレ整備に係る実施設計を行う。	
3	柴田町	ナイトツーリズム受入環境整備事業	柴田町	7,000	3,500	目的 柴田町が地域ブランド戦略のテーマに掲げていた「花のまち柴田」に「光」という魅力を付加し、光のまちづくりとして発展させることで、新しい町の魅力を創出する。また、光のまちづくりといった新たな切り口からの地域活性化策を推進することで、交流人口の拡大、地域の稼ぐ力を醸成し、元気で明るい賑わいのあるまちを創出する。	本事業は、平成30年度に市町村提案事業で実施した「花の夜間観賞整備」や「ナイトツーリズムの推進」という取組に、「光」という魅力を付加することで発展させたものである。特に船岡城址公園の高低差に着目して行うイルミネーションは、既存の地域資源を活用して観光産業の発展に取り組む町の創意・工夫がみられる事業といえる。また、地域の商店主や児童館の子供など地域住民による手作りのモニュメントスポットの製作など、一部のイルミネーションを住民参加型で実施することで、単なる一過性のイベントではなく、郷土愛の醸成などの効果も期待できる事業といえる。 以上のことから、本事業は市町村提案事業の主旨に合致した事業と認められる。
						内容 ○標高135メートルの船岡城址公園の高低差を活かした垂直的なフィールドに最新技術を用いたイルミネーションを実施する。 ○船岡城址公園のスロープカー沿いに動物をかたどったイルミネーションを配置し「夜の動物園」を実施する。 ○住民参加型イベントとして児童館の子供達による手作りのモニュメントスポットの作成に取り組む。 ○SNS映えするハートフォトスポットの設定やサンタハウスの再現、また、クリスマスコンサートや花マルシェとの連携によるナイトイベントを開催する。	
4	大郷町	公民連携福祉ものづくり事業	(仮称)大郷町地方創生推進連携協議会	2,044	1,021	目的 大郷町は、人口減少・少子高齢化が続き、また全体的な商業機能の低下、賑わいが喪失している状況にあり、近隣市町村に比べて閉塞感、埋没感を強く感じている。そこで、2019年度より、(仮称)大郷町地方創生推進連携協議会を立ち上げ、不動産活用を手始めに、人材育成、知的財産の活用等について、官学連携や福祉の視点も加えながら、公民連携の手法で取り組み、地域にあるすべての資源の価値向上と活性化を行い地方創生の推進を図る。本事業では、当該協議会における地方創生プロジェクトの一環として、一般就労に至らない障害者の自立支援の観点から、障害者支援の新たな仕組みづくりを支援する。	本事業は、障害者福祉施設において自立支援の一環で作成される「さをり織」に、ビジネス的な観点や高校生の若い感性から付加価値の向上を図り、「売れる」福祉ものづくりの仕組みを産学官連携で構築するモデル的な事業といえる。また、「宮城の将来ビジョン」の実現に向けた33の取組のうち、「取組10 産業活動の基礎となる人材の育成・確保」、「取組18 多様な就業機会や就業環境の創出」及び「取組22 障害があっても安心して生活できる地域社会の実現」と合致し、県の政策との整合性も図られている。 以上のことから、本事業は市町村提案事業の主旨に合致した事業と認められる。
						内容 町内障害者福祉施設で製造される「さをり織」の反物に、素材製造企業がクッション材を提供、高校生が商品デザインと広告宣伝のプロデュースを行い、産学官連携により、販路確保と併せた継続的に「売れる」商品の開発に取り組む。	
5	加美町	インバウンド誘致に向けたPR事業	加美町	2,366	1,182	目的 加美町では、人口減少に伴う地域経済の停滞等を解消すべく、地方創生の一環として、平成30年4月にやくらい観光施設群内に県内初の町営ボルダリング施設「やくらいWALL」を開設、また、自然や文化、人々と交流しながらサイクリング・トレッキング等を楽しむ「ジャパンエコトラック」のルート設定を行い、住民だけでなく町外の方々も楽しむことができる機会を創出し、交流人口の増加を通じた地域活性化策に取り組んでいる。これらの取り組みの情報発信については、各メディアの活用、町広報誌、ホームページ上で周知をしているが、「訪日外国人」向けのPR活動に課題があると認識している。「訪日外国人」は一人あたりの旅行消費額が多いことから、地域活性化策を進めていく上で欠かせない人材と考えている。このことから、国内だけでなく、訪日外国人をターゲットに「体験したい・訪れたい」と思うようなスポーツ体験型プログラムを提案する情報発信を行うことで、更なる交流人口の増加、地域活性化を図る。	既に外国人の受入実績がある農業体験などのグリーン・ツーリズムと町の観光施設、そしてスポーツ体験施設を複合した新たな体験プランは、訪日外国人の様々なニーズに対応し、交流人口の増加に高い効果が期待できる。また、本事業で作成するスポーツ体験施設をPRする多言語版リーフレットには、その他の観光施設や体験プランについても併せて掲載するため、スポーツ体験を入口として、加美町全体への波及効果が期待できる。町の創意・工夫がみられる取組といえる。 以上のことから、本事業は市町村提案事業の主旨に合致した事業と認められる。
						内容 ○ボルダリング施設「やくらいWALL」の多言語版(英語・韓国語・日本語)PR用リーフレットを作成する。 ○「ジャパンエコトラック」の多言語版(英語)PR用リーフレットを作成する。 ○訪日外国人を誘致するにあたり、多言語表示や接客など受け入れに必要な整備について検討する。 ○現在交流のある他国の関係機関やインフルエンサーなどの訪日外国人に、実際に来訪・体験してもらい、その内容をSNSなどで発信してもらうための、体験受入プランを検討する。	
計				27,784	13,889		